

ポリオ（小児麻痺）ワクチンの追加接種のお勧めです

今回のポリオワクチン接種の勧奨に該当する方は、期間の長短に関わらず、ミャンマーを訪れる方、赴任される方、及びその帯同家族の方々ですが、過去の接種歴、生まれ年により、対応が異なります。

現在、ミャンマーでポリオ（小児麻痺）の流行が危惧されています。

ミャンマーで最後に野生株のポリオウイルス患者が報告されたのは 2007 年です。そして、本年 3 月 27 日にはポリオ根絶が宣言されていました。

しかし、そのすぐ後、4 月に 1 名(2 歳 4 ヶ月)、10 月に 1 名(1 歳 4 ヶ月)がラカイン州マウンドー地区にてポリオ感染が確認されました。ポリオウイルスの宿主はヒトだけであること、及び遺伝子変異の解析からこのウイルスは一年以上、ヒトの間で存在し続けていた（つまり感染の伝播が起こっていた）可能性が高いと考えられ、慎重な観察が続けられています。ミャンマーのポリオワクチンの接種率は 76%と、もともとあまり高くなく、地域差も大きいようです。患者数がたった二人ならあまり問題はないのではないかと考えられますが、実は、計算上、一人の麻痺患者の周囲には 1000 人の不顕性感染者がいることになりまますので、既に感染が広範囲に広がっている可能性を否定できないのです。そのため、この 12 月の 5～7 日にかけて、感染が広まっている可能性の高い地域の 5 歳以下の子どもたち 36 万人にポリオワクチンの追加接種が行われました。追加接種は周辺の地域なども加え、さらにあと少なくとも 3 回は行われる予定とのことです。

日本でポリオの定期予防接種が始まったのは、1964 年です。その前、1961 年にポリオの大きな流行があり、旧ソ連やカナダから 1300 万人分のポリオワクチンが緊急輸入され、一ヶ月の間に当時の 10 歳までの小児全員を対象にポリオワクチンが接種されたという歴史があります（初回接種率 91%）。

今回のポリオの発生を受けて、米国の CDC(Centers for Disease Control and Prevention) は、ミャンマーを訪れる人は全て、ポリオワクチンの基礎免疫を終了しておくことに加え、基礎免疫を終了している成人に関しても、追加免疫をしておくことを推奨しています。

今回、ポリオワクチンの接種の勧奨に該当する方は、期間の長短に関わらず、ミャンマーを訪れる方、赴任される方、及びその帯同家族の方々ですが、以上を踏まえまして、当院では、過去の接種歴、生まれ年により、以下のような対応をとることといたしました。

- ① 過去にポリオワクチンを打ったことがない方は、生まれ年によらず、基礎免疫を受けていただくことをお勧めいたします。
- ② 1951 年以前に出生された方は一度も接種されたことがないと思われるので、基礎免疫をお勧めします。

- ③ 1952年から1963年に出生された方は、基礎免疫を終了している可能性が高いのですが、できれば、過去の記録を調べてみて頂き、医師とご相談下さい。
- ④ 1964年以降に出生された方は、ほとんどの方が基礎免疫を終了されているはずですが、こうした方々には、米国CDCの推奨から、1回の追加接種をお勧めします。ただし、現在11歳未満のお子様は11歳になってからでよいでしょう。

*日本で、1975～1977年に生まれた方は、当時使用されたワクチンの特性で抗体獲得率が低いことが判明しており、以前よりポリオ感染国への渡航の有無に関わらず、追加接種が勧告されておりましたので、該当する方は、特にワクチンの接種をお勧めいたします。

ポリオとは

ポリオは、ポリオウイルスによって引き起こされる病気です。小児麻痺という別名もあります。ウイルスが人の口の中に入って、腸の中で増えることで感染します。増えたポリオウイルスは、再び便の中に排泄され、この便を介してさらに他の人に感染します。成人が感染することもあります。乳幼児がかかることが多い病気です。

ポリオウイルスに感染しても、多くの場合、病気としての明らかな症状はあらわれずに（不顕性感染）、知らない間に免疫ができます。しかし、こうした幸運な場合ばかりではありません。腸管に入ったウイルスが脊髄の一部に入り込み、主に手や足に麻痺があらわれ、その麻痺が一生残ってしまうことがあります。計算上、一人の麻痺患者の周囲には1000人の不顕性感染者がいることとなります。また麻痺患者がいないように見えても、数百人規模の不顕性感染が続いているかもしれません。免疫がなければ、知らない間に感染し、一時的ではあるにせよ、ウイルスの運び手になってしまう可能性があります。これが、世界的に患者数が減ってきていても、どの国もワクチンの接種を止めないでいる理由の一つになっています。

死亡率に関しては、小児では2～5%、成人では15～30%と高くなり、特に妊婦では重症になる傾向があります。球麻痺を合併した場合の死亡率は、25～75%と高率です。

麻痺の進行を止めたり、麻痺を回復させるための治療が試みられてきましたが、現在でも、残念ながら特効薬などの確実な治療法はありません。麻痺に対しては、残された機能を最大限に活用するためのリハビリテーションが行われます。

（日本国厚生省、日本国国立感染症研究所感染症情報センター資料より）

ミャンマー

